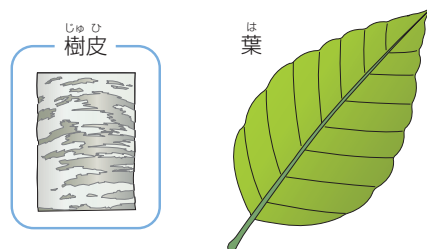




ブナ



ブナは、北海道南部から九州の山に生えている(1)です。(2)になると(3)します。なお、ブナは(4)です。



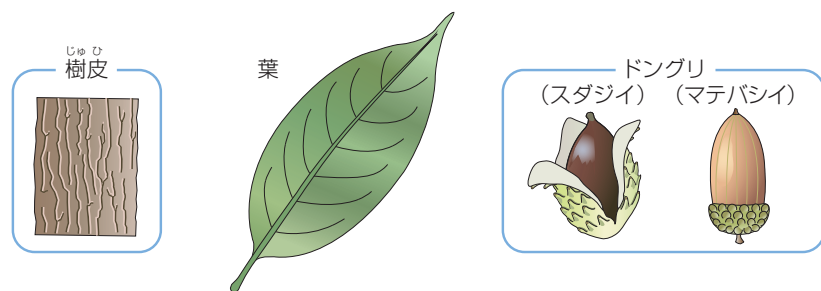
+プラスワン

ブナのたくさん生えている林には、ブナの落ち葉がたくさん積もっており、降った雨水などを受け止めます。そのため、ブナ林の土には水が多くふくまれています。ブナ林はほかの樹木の林より保水力(水をたくわえる力)が高いといわれます。

シイ



シイは、本州から沖縄の山に生えている(5)です。葉には光たくがあります。なお、シイは(6)です。シイは(7)(実)をつけます。(8)になるとたくさんのどんぐりを落とします。



+プラスワン

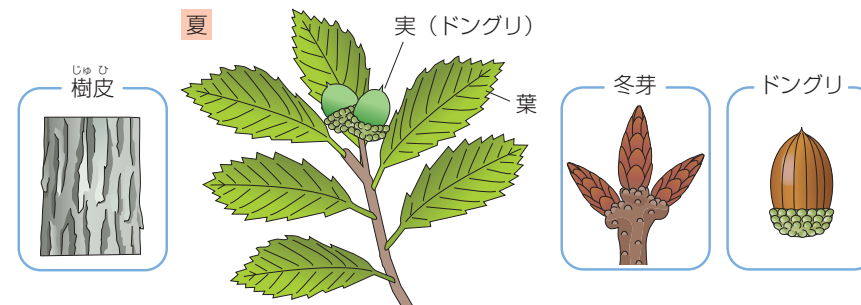
ブナ科の樹木には、キノコのなかまがよく生えます。例えばシイタケは、シイやコナラ、クヌギなどに生えます。

コナラ



コナラは、北海道から九州の山に生えている(9)です。(10)になると葉が赤色や黄色に色づきます。なお、コナラは(11)です。

コナラは(12)(実)をつけます。(13)になるとたくさんのどんぐりを落とします。また、たくさんのりんぺんで包まれた冬芽をつけます。

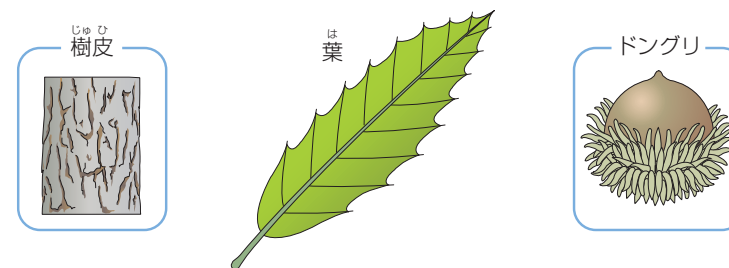


クヌギ



クヌギは、本州から九州の山に生えている(14)です。なお、クヌギは(15)です。

クヌギは(16)(実)をつけます。(17)になるとたくさんのどんぐりを落とします。



クリ



クリは、北海道から九州の山に生えている(18)です。なお、クリは(19)です。

クリの花は1つ1つが小さく、大きな花びらなどをもたないため、風ばい花のように思われますが、実際は(20)です。初夏ごろになると、独特なおいを出す花をさかせ、昆虫を引きつけます。

クリは秋になると(21)に包まれた実をつけます。クリの実にはでんぷんやたんぱく質が多くふくまれており、食用とされます。



+ プラスワン

クリの実の、わたしたちが食べる場所は種子の子葉です。皮をむいたクリの実が縦半分に割れることからわかります。

カエデ



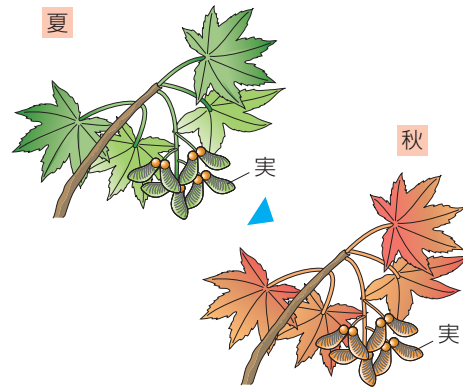
カエデは、山に生えていたり、庭や公園などに植えられていたりする樹木です。「モミジ」とよばれることもあります。代表的な品種は「イロハモミジ」です。

カエデは秋になると美しく(22)するため、そのようなおおせいの人が見に行きます(「もみじ狩り」といいます)。



成長のようす (イロハモミジの場合)

カエデは(23)です。(24)に花をさかせ、(25)ごろに実をつけます。また、秋になると(26)し(黄葉するものもあります)、やがて落ちます。



+ プラスワン

カエデのなかまには、葉の切れこみがイロハモミジより浅く、黄葉する「イタヤカエデ」や、葉に3つの切れこみがあり紅葉する「トウカエデ」などがあります。

花のつくり

カエデは、種類によって、同じ株にお花と、おしべとめしべのそろった花をさかせるものや、お花とめ花を別の株にさかせるものがあります。

種子の運ばれ方

カエデの実(27)形をしており、夏から秋にかけて熟すと、(28)によって種子が運ばれます。